

こんな子どもたちが誰かからの「支援」を待っている

毎年1月から2月にかけて、EDFの担当者は2000校以上からの寄せられた奨学金申請者を選抜して調査します。2014年度は、現在のところ10,000人の学生が奨学金審査に合格するであろうと見込んでいます。

奨学金を申請する学生たちには、「貧しさ」に加えて次のような背景があります。障害、健康上の問題、孤児、離れ離れに生活する家族などの生活のさまざまな局面における恵まれない状況や、住居等、生活を営む上での最低限の要素が欠けているという問題です。そして、これらの状況と我々の基準を考慮し、学生へ奨学金を支給するかどうかを決定しています。

次に紹介するのは、今年奨学金を申請した何千人ものうちのごく一部の学生達の話です。将来、自分自身をさらに高めていくための知識・知恵を学ぶ機会を子ども達に更に提供できるよう、皆さんがこの学生達のことを周りの人に伝えていただけるよう強く願っています。



ルンナパー・プロムチョムプー
バーン・ソーン・コーン学校
ヤソートン県

「私の家族は、父、母、祖母、兄、私そして弟の6人家族です。祖母は糖尿病で、病状のチェックをするため毎月病院に行かなければなりません。父は足のない障害者です。弟も貧血で、毎月血液検査に行かなければなりません。弟は気管支喘息もあるので、風邪を引いたときには1週間入院しなければなりません。父は歩くことができず、母が世話をしなければならぬので、祖母に弟の世話を頼んでいます。週末は祖母に休んでもらうため、私が母や祖母に代わって弟の面倒を見なければなりません。」



サラウット・コンケオ
バーン・プタラクサー学校
アムナーチャルアン県

「父は僕がまだ小さい時に家を出ていきました。僕は父の顔を見たことがありません。母は再婚をし、新しい父との間に弟が1人います。母と新しい父は弟の世話を祖母に頼み、バンコクに働きに行っています。祖母が日雇いの仕事に出かける日は、僕は学校を休んで弟の面倒を見なければなりません。僕の家族は畑や住む土地がありませんので、他の人の土地に小屋を建てて住むしかありません。将来僕は警察官になって、泥棒を捕まえたり、地域の麻薬をなくしたいです。」



ブラポット・クーンマー
ナー・テー・コークサムラン学校
アムナーチャルアン県

「今現在、父と母は離れて暮らしているので、家族は大変です。僕は商売をしている叔父と叔母と一緒に暮らしています。僕は、レストランの手伝いをするため早起きをします。また、田んぼやキャッサバの農園で働いて収入を得ています。キャッサバを掘り、売りに行く手伝いをしなければなりません。いつもの仕事に加えて、稲刈りやピーナッツ、キャッサバの植え付けを頼まれることが時々あるので、それも引き受けています。」



ウイタヤー・ケイムカン
バーン・ノーン・パクワン学校
ブンカーン県

「父と母は離婚をし、僕を置いてそれぞれ再婚しています。僕は孤児になったので、祖父母と生活をしています。祖父は腎臓病で腹腔洗浄をしなければなりません。祖父はそれをもう3年もしています。学校があるときは、先生にお願いして祖父の腹腔洗浄をするために毎日お昼休みに家に帰らせてもらいます。今僕は祖父を父、祖母を母と呼んでいます。」

自分を捧げてきた先生の思い



EDF奨学金事業の運営にあたり、各学校の奨学金担当の先生方の役割は非常に大きなものです。なぜなら、奨学金を本当に必要とする学生の選考に始まり、成績、品行、生活状況そして奨学金の使い道を学習するという目的に沿ったものをするよう管理するところまで、先生方は子ども達の近くにいて、彼らのことを一番よく理解している人達だからです。また、それに加えて学生が奨学金を受け取っている

期間中、EDFとの連絡係をしなければなりません。このような思いがあり、EDFは恵まれない子ども達のために尽くし、EDF奨学生の世話をしてきた先生のインタビューをここに掲載したいと思います。

『EDFダルニー奨学金は、私の勤務する学校のチャンスに恵まれない子ども達にとって非常に大きな助けになっています。奨学金を受け取るとことは、子ども達にとって

新しい機会というドアが開くようなものです。奨学金を受け取る学生の大部分は、離れ離れに生活する家庭の子ども達です。両親がバラバラの中、子どもから青年へと変わる重要な時期の子ども達は、様々なリスクや誘惑に立ち向かわなければなりません。

奨学生になるということ、彼らが、真面目に勉強しなければならないと感じるようになることは非常に良いことです。また、高校まで修了できる機会を与えられるということは、彼らが物事の分別が付けられ、将来の方向性を自分で定められる段階まで成熟できるということです。

この貧しい子ども達ほぼ全員に、どれだけ困難が待ち構えていても、よい人生、高等教育、よい仕事を掴み取る力があります。しかし、1つ欠けていることがあります。それは、その夢を実現するための援助です。そしてEDFダルニー奨学金は、その欠けている

隙間を埋めることができるのです。これは素晴らしいことです。私はEDFと奨学金支援者の方は、単に学生に奨学金を支給する人ではなく、子ども達が目的を達成するのを助け、夢を叶えることをサポートするお父さん、お母さんのような存在だと考えています。

私は今年定年退職をします。EDFの奨学生のよりよい未来のために指導をし、世話をしてきたこの13年以上の経験をおぼえる日はありません。この間、ここでは紹介しきれないくらいたくさんのおいしいエピソードが生まれました。しかし、ここで支援をしてくださった皆さんに届けたい短い短い1つの言葉は「心から感謝をしています」です。』

レカー・ハンチャナ

EDF奨学金担当教師
バーン・ブ(クル・プラチャー・
ウィタヤー)学校
ナコンラーチャシマー県

ニュース・イベント

「The Magazine」が282,000パーツの奨学金をご寄付



2013年12月23日、雑誌「The Magazine」は10周年記念を祝うために『A Perfect 10』というイベントを開催して様々な活動が行われました。その一つ、アーティストの写真のオークションにより集められた282,000パーツは、EDFの『同じ空の下に』奨学金制度を通して、深南部の爆弾テロにより両親を亡くした子どもたちへの奨学金として支援に使われます。

バンコク富山県人会が2年目のご寄付

2014年1月29日、一バンコク富山県人会の代表者の常川和幸様(中央)と馬場正樹様(左)より、昨年に引き続き2年目の奨学金31,930パーツをご寄付いただきました。この寄付金は会員の皆様によるゴルフコンペで集められたものです。



片山誠三氏から奨学金30万パーツのご寄付

2014年2月12日、(中央)ELASTOMIX (THAILAND) CO.LTDの元社長の片山誠三氏と奥様は、わざわざ日本からEDFを訪問され、個人として2014年度のダルニー奨学金制度に300,000パーツをご寄付いただきました。



アルカテル・ルーセントは「タイサイバーキッズ」プロジェクトに100万パーツを提供

2014年2月17日、Alcatel-Lucent (Thailand) Co., Ltd.の代表取締役Mr. Sebastien Laurentより「タイ・サイバー・キッズ」プロジェクトへの支援金1,000,000パーツをご寄付いただきました。このプロジェクトは2014年度に実施する予定であり、タイの遠隔農村地域での子供にIT知識を植え付けていくことが目的です。



The Education for Development Foundation (EDF)

50, Kasetsart University Alumni Bldg., Phaholyothin Rd., Ladyao Jatujak, Bangkok 10900

Tel.0-2579-9209-11 (タイ語) 0-2942-8538 (日本語) Fax.0-2940-5266

Email: public@edfthai.org URL: www.edfthai.org/jp

日本でのお問い合わせ: 一般財団法人 民際センター

〒162-0081 新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F

TEL: 03-6457-5782 FAX: 03-6457-5783

Email: info@minsai.org URL: www.minsai.org